

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00073

研究課題名（和文）北米カナダ・中南米の先住民神話・儀礼の比較研究

研究課題名（英文）A comparative study of indigenous myths and rituals in Canada, North America, Mexico and Latin America

研究代表者

谷口 智子 (TOMOKO, TANIGUCHI)

愛知県立大学・外国語学部・教授

研究者番号：00363911

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：カナダ、アメリカ合衆国、中南米の先住民儀礼や神話の比較研究を行った。谷口智子（愛知県立大学）は北米カナダ、アメリカ合衆国のクリー族、ラコタ族、南米エクアドルのアマゾンの先住民アチュアル族の神話や儀礼についてフィールドワークを積み重ね、いくつかの論文にまとめた。またアンデス先住民で起こった16世紀のタキ・オンコイ運動について単著を出版した。木村武史（筑波大学）は、北米カナダ、アメリカ合衆国のショショーニ族を中心に、北米全先住民の宗教研究についていくつかの論文と単著を出した。岩崎賢（神奈川大学）は植民地時代以降現代にいたるまで、アステカ族とその子孫の神話や儀礼について、論文や口頭発表を行ってきた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は北米や中南米先住民の宗教、神話、儀礼についての比較研究を行った。本研究は全くバラバラな地域の個別研究に陥ることなく、神話や儀礼に似たような要素があることに気づき、アメリカ大陸全般の先住民の宗教的世界の比較研究を行う目的で行った。研究の学術的意義としては、主に三つある。北米、中南米の先住民儀礼の構造的類似性を発見すること、また、アメリカ大陸の先住民宗教を横断的に比較研究すること。研究者が実際に儀礼に参加する「体験者」として、その体験をどう理解するかという解釈学的プロセスを整理し、明らかにすること。それぞれの地域の「伝統の再創造」を現在進行形で考察し、広く社会に還元することである。

研究成果の概要（英文）：A comparative study of indigenous rituals and myths in North American Canada, the United States, and Latin America were conducted. Tomoko Taniguchi (Aichi Prefectural University) conducted fieldwork on the myths and rituals of the Cree and Lakota peoples of Canada and the United States, and the Achaual people of the Amazon in Ecuador, South America, and summarized them in several papers. She has also published a monograph on the 16th century Taqui Onkoy movement among the indigenous peoples of the Andes. Takeshi Kimura (University of Tsukuba) has published several articles and monographs on the religious studies of all the indigenous peoples in North America, focusing on the Shoshone in Canada and the United States. Takashi Iwasaki (University of Kanagawa) has published papers and oral presentations on the myths and rituals of the Aztecs and their descendants from the colonial period to the present.

研究分野：宗教学

キーワード：北米先住民 中南米先住民 神話 儀礼 宗教 クリー ショショーニ アステカ

1. 研究開始当初の背景・動機

本科研を始めたのが 2020 年度だったが、申請書の段階で予定していたニュージーランドでの IAHR (国際宗教学宗教史学会) 参加発表は、新型コロナウイルス蔓延のため、中止になり、できなくなった。また、それ以降も、一切の海外渡航調査ができなくなった。それぞれの北米先住民族の宗教的儀礼の調査も予定していたが、同じ理由で人々が集まる集団的行動が行われなかったため、研究代表者の谷口をはじめ、いずれの研究分担者も渡航調査できず、文献調査のみにとどまった。新型コロナウイルスの蔓延は収まらず、2 年目、3 年目もなかなか海外渡航調査が難しく、研究の進展が望めなかった。そのため、海外渡航して新たに調査するよりも、これまでの海外フィールドワーク調査と文献調査の整理を行うこととした。

2. 研究の目的

カナダ、サスカチュワン州ホールレイク居留地の先住民クリー族の男性儀礼サンダンス、女性儀礼ウーマンズ・セレモニーを中心に、アメリカ合衆国ラコタ (=スー族) の神話に由来する七つの儀礼とウーマンズ・セレモニー全ての調査研究を行うことであった。本研究の目的は三つあり、①北米、中南米の先住民の儀礼が構造的に似ていることを、アメリカ大陸を縦断的に比較宗教学の視点から研究する。②研究代表者が実際に儀礼に参加する「体験者」として、その体験をどう理解、解釈するかという解釈学的プロセスを整理し、明らかにする。③それぞれの地域の「伝統の再創造」を現在進行形で考察することであった。

3. 研究の方法

カナダ先住民クリー族とアメリカ先住民ラコタ族の、サンダンス儀礼を中心に、北米カナダの平原インディアンに共通する 7 つの儀礼 (スウェット・ロッジ、パイプ・セレモニー、ヴィジョン・クエスト、命名式、治療の儀式、親戚として受け入れる儀式など) とウーマンズ・セレモニーの調査研究を約 1 年間行うことを当初、目的とした。5 月 (ウーマンズ・セレモニー) と 8 月 (サンダンス) にサスカチュワン州ホールレイク居留地に研究代表者 (谷口) と、民族音楽が専門でクリー族の音楽に詳しい研究協力者 (山本暢) が行き、インフォーマントらとともに、これらの儀礼に参加し、記録することにより、彼らの伝統的な儀礼が、日本人や他の人々を巻き込んでどのように復活、再創造されているかを調査する予定であったが、新型コロナウイルスの蔓延のため、渡航できず、これまで行ったこれらの儀礼の

フィールドワークのまとめと文献研究を行った。

ただ、谷口智子(愛知県立大学)は、渡航先の状況により、予定していたカナダには行けなかったが、2023年8月におよそ3週間エクアドルのアマゾンに行き、アチュアル族のフィールドワークを行った。そこで神話の採集を行い、水タバコやアヤワスカを用いた儀礼やシャーマニズムについて、現地のシャーマンから聞き取り調査をした。論文は現在まとめているが、口頭発表は2024年3月の神話学研究会にて、「エクアドル・アマゾンのアチュアル族の神話」というタイトルで発表した。

4. 研究成果

2022年度には、木村武史が、北米先住民研究の集大成、単著『北米先住民の宗教と神話の世界: 歴史と文化交渉の観点から』(筑波大学出版会、2022年1月)を上梓した。また、彼が編者となって、『性愛と暴力の神話学』(晶文社、2022年)をまとめた。谷口智子も単著『タキ・オンコイ 踊る病—16世紀ペルーにおけるシャーマニズム、鉱山労働、水銀汚染』(春風社、2023年1月)を上梓した。この年度は、研究代表者(谷口智子)と研究分担者(木村武史)が計3冊著作を出版できたので、本科研もそれに大いに貢献したといえる。

ただ、全員が足並みを揃えて業績を出せたわけではないので、その点が課題であった。笹尾典代(恵泉女学園大学)と山本 暢(帝京平成大学)はこれまで業績なしであるが、2024年度中に論文もしくは北米先住民音楽のCD作成などで、業績として残す予定である。また、グループとしては、本科研で得た知見を、これまで書き溜めた各自の論文をまとめて『現代におけるカナダ北米・中南米 先住民儀礼の比較宗教研究—サンダンスから放血儀礼まで』として一冊の書籍にまとめ、近年中に出版する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 谷口智子	4. 巻 23
2. 論文標題 「浄化と共感の儀礼」としてのスウェットロジ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知県立大学大学院国際文化研究科論集	6. 最初と最後の頁 125-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15088/00004868	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 谷口智子	4. 巻 54
2. 論文標題 「困いに入れられた神」と「赤く顔を塗られた神」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知県立大学外国語学部紀要(地域研究・国際学編)	6. 最初と最後の頁 89-113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15088/00004831	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 谷口 智子	4. 巻 14
2. 論文標題 カナダ、クリー族のウーマンズ・セレモニー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 共生の文化研究 = Journal of cultural symbiosis research	6. 最初と最後の頁 88 ~ 90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15088/00004133	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 木村 武史	4. 巻 45
2. 論文標題 ホビ「昆虫」神話	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 哲学・思想論集	6. 最初と最後の頁 250(1) ~ 234(17)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15068/00159939	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 岩崎 賢	4. 巻 70
2. 論文標題 粘菌と人間は同じ - 南方熊楠の眼に古代メキシコの供犠はどう映るか? -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人文学研究所報	6. 最初と最後の頁 29 ~ 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24792/0002000173	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 谷口智子
2. 発表標題 エクアドル・アマゾンのアチュアル族の神話
3. 学会等名 日本宗教学会第83回学術大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 岩崎賢
2. 発表標題 岡本太郎の眼で見る古代メキシコ
3. 学会等名 イベリア・ラテンアメリカ文化研究会 (SECILA) 第80回例会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 谷口智子
2. 発表標題 エクアドル・アマゾンのアチュアル族の神話
3. 学会等名 神話学研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 木村武史
2. 発表標題 先住民宗教における土着性概念の再検討
3. 学会等名 筑波大学哲学・思想学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 谷口智子
2. 発表標題 北米先住民儀礼と修復的司法-スウェットロッジを例にして-
3. 学会等名 日本宗教学会第81回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷口智子
2. 発表標題 征服のトラウマとしてのインカリ神話と民衆劇
3. 学会等名 日本宗教学会第80回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木村武史
2. 発表標題 北米先住民神話に見る性愛と暴力
3. 学会等名 日本宗教学会第80回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷口智子
2. 発表標題 カナダ、クリー族のサンダンスとウーマンズ・セレモニー
3. 学会等名 日本宗教学会第79回学術大会（2020年9月）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩崎賢
2. 発表標題 イニシエーションとしての移住 『第二クアウティンチャン絵図（MC2）』に描かれた四つの試練
3. 学会等名 科研研究会（2021年3月）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 谷口智子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 340
3. 書名 タキ・オンコイ 踊る病 植民地ペルーにおけるシャーマニズム、鉱山労働、水銀汚染	

1. 著者名 木村武史	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑波大学出版会	5. 総ページ数 389
3. 書名 北米先住民族の宗教と神話の世界：歴史と文化交渉の観点から	

1. 著者名 木村武史「ヴァギナ・デンダータとココペリー豊穰・幸福と恐怖・病・暴力」	4. 発行年 2022年
2. 出版社 晶文社	5. 総ページ数 368
3. 書名 『性愛と暴力の神話学』	

1. 著者名 木村武史「双子の妹を求めのお互の性愛の罪を贖う供犠と再生による世界創造ーマリ・ドゴン神話よ りー」	4. 発行年 2022年
2. 出版社 晶文社	5. 総ページ数 368
3. 書名 『性愛と暴力の神話学』	

1. 著者名 木村武史	4. 発行年 2022年
2. 出版社 晶文社	5. 総ページ数 368
3. 書名 性愛と暴力の神話学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

科研ー研究者を探す(谷口智子) https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000000363911/ 科研ー研究者を探す(木村武史) https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000000294611/ 木村武史 researchmap https://researchmap.jp/read0188510 谷口智子 researchmap https://researchmap.jp/read0111792 岩崎賢 researchmap https://researchmap.jp/guillermo1325 笹尾典代 researchmap https://researchmap.jp/read0075210

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	木村 武史 (Kimura Takeshi) (00294611)	筑波大学・人文社会系・教授 (12102)	北米グループ
研究分担者	岩崎 賢 (Iwasaki Takashi) (50587269)	神奈川大学・外国語学部・准教授 (32702)	中米グループ
研究分担者	笹尾 典代 (Sasao Michiyo) (60308294)	恵泉女学園大学・人文学部・教授 (32694)	中米グループ
研究分担者	山本 暢 (Yamamoto Noburu) (20815203)	帝京平成大学・現代ライフ学部・助教 (32511)	北米グループ

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関